

第二章 部門史

〈全日制・定時制〉

- ・生徒会活動のあゆみ
- ・各部活動のあゆみ

〈定時制〉

- ・生活体験発表大会 十年のあゆみ

P T A活動のあゆみ

「旭工八十周年を迎えるにあたって」

全日制生徒会長 原 田 翔 伍

(建築科3年)



たように思います。

私が旭工に入学した時、ちょうど新型コロナウイルスの影響によって、夢と希望に溢れた高校生活が残念ながら休校した状態からのスタートになってしまいました。さらに少子化の影響を受け、本校も自動車科の閉科があり、ここ四・五年で旭工が大きく変わってきたように思います。

今、旭工は八十周年の節目を迎え、また新たな歴史を刻んでいきます。およそ半世紀以上も前の時代から、多くの先輩や先生方、そしてPTAの方などから受け継がれてきた旭工のよき伝統は、より一層厚みを増してきていると思います。また地域の方や社会に向けても、その信頼はより一層増してきていると思います。

私たちは校訓である「信頼される人になれ」

を常に考えながら旭工の教えや伝統を培っていき、後輩たちの手本になれるような生徒を目指しています。旭工で学んできた教えや伝統は、社会に出ても私たちの大きな力になって、これからもずっと役に立つと思います。

この原稿を書いている現在、旭工では生徒会が中心となって工高祭の準備を着々と進めています。しかし、一年生、二年生だけではなく、私たち三年生も本来の学校祭をいまだ経験したことがありません。しかし、今まで本来のあるべき高校生活を送ることができていなかった私たちにとって、とても楽しみで仕方がありません。そして私には、今が地域の方々や社会に「旭工」を知ってもらおうことができるとても素晴らしいチャンスだと思っています。丸々三年間、学校祭を行ってこなかった旭工生にとって、三年ぶりの工高祭は知らないことがたくさんあると思います。それをみんなの力を合わせて完成させたいと思います。今年是一般公開もあり、八十周年ということも合わせて、とても恵まれた年だと思っています。私は最終学年ということで進路決定という大切な決断も控えています。この工高祭の運営に力を入れて行きたいと思っています。

私たちは、新型コロナウイルスの影響もあ

り、苦しい中にいます。ですがそんな状況の中でも、私たちにできることはたくさんあると思います。先輩方や、先生方、PTAの方々のお借りし、協力をしていただきながら、微力ではありますが旭工の一員として、これからの旭工を作っていくために頑張ってくださいと思います。



「創立八十周年を迎えて」

定時制生徒会長 近藤 星 弥

(電気科4年)



旭川工業高校は創立八十周年を迎えました。この記念すべき年に生徒会長を務めさせていただき、とても

光栄に思います。

皆さんは八十年と聞いてどのようなことを思い浮かべるでしょうか。僕の祖父母の人生よりも多くの年月を重ねているのだと思うと、この学校の歴史の重みを感じます。

旭川工業高校は、まだ戦時中であつた一九四一年(昭和一六年)に開校されました。

「信頼される人になれ」の校訓の下、働きながら学ぶ技術者への道を多くの先輩たちが歩んでこられました。そして、ここ旭川市だけではなく、様々な場所でご活躍されています。

長い時を経て、定時制は二〇一四年(平成二六年)にそれまで電気科・建築科・土木科の三学科から、建築科と土木科の二学科が建築・土木科に統合されました。生徒の数が少なくなつたためとのことでした。

定時制には、様々な事情を抱えた生徒が数

多く在籍しています。それはきつと今も昔も変わらず、僕も例外ではありません。

僕は二年前の四月、この旭川工業高校定時制に転校してきました。この学校に来て、優しく楽しく頼もしい仲間に出会い、学校に楽しく通うことができています。

コロナ禍の中、友人との距離を縮めることができたのは、当時の生徒会の先輩が工夫をしながら学校行事を開催してくれたおかげでもあります。球技大会や食の感謝祭(以前の炊事遠足)、映画鑑賞、そして生活体験発表などの学校行事の数々は、昭和の時代からずっと受け継がれています。きつと先輩たちも同じように級友と汗を流し、笑い合い親交を深めていたのだと思います。

また、僕はこの学校で多くの資格を取得することができました。授業が始まる前や放課後にわかるまで丁寧に教えてくださり、応援して下さる先生方がいてこそその結果だと思います。放課後の部活動もまた学校生活の楽しみの一つです。

今ここに僕の、そして僕たちの居場所を数多くの先輩達が残してくださったことに心から感謝しています。

八十年の歴史の中のたった二年を過ごした僕がそう感じるのですから、諸先輩たちの母

校を思う気持ちは計り知れません。

多くの先輩たちから受け継いだこの素晴らしい学び舎を、これから入ってくる後輩たちのために僕たちは大切に引き継いでいかなければならないと思います。伝統ある旭川工業高校定時制を盛り上げるべく、これからも皆で頑張っていきたいと思えます。



全日制生徒会活動

生徒会は何も行事ばかりが目的ではありません。生徒の自治活動、つまり自分達の学校生活をどうしていくか考え、実現させていく。その一環として行事もあるということは、なかなか理解してもらえず、実現できないまま世代交代を迎える、その繰り返しです。では、執行部が選挙で選ばれてから、どういう活動をするかご理解いただくため、敢えて十月の行事から紹介します。

●旭工オリピック（十月第一週ころ）

花咲陸上競技場で行う伝統的な陸上競技大会です。「秋の祭典」の一部として隔年で実施されていたものが毎年単独開催となりました。

屋外のため、これより早ければ熱中症、遅ければ天候不順や他行事との重複等、紆余曲折の末、ここに落ち着きました。執行部は新旧交代の時期に当たり、旧執行部が準備し、



新執行部にアドバイスをしながら引継ぎを行う体制が整いつつあります。平成三十年度は荒天で中止、逆に令和元年度はコロナ禍で一実施の行事となりました。

近年は女子生徒の入学が増え、ソフトボール遠投と走り幅跳びのみだった出場種目は100m走や高跳びへと拡大し、ジャベリックスローなど女子専門種目の導入も進んでいます。

なお、令和四年度は競技場改修のため、校内で秋季体育文化大会を実施します。

●リーダー研修（十一月ころ）

新執行部員が、次年度の工高祭について企画などを行ったり、ピアサポートの協力のもとコミュニケーショントレーニングを行い、リーダーとしての素質を身につけます。例年は近隣高の生徒会とお互いの行事について交流もしていましたが、コロナ禍の影響で自粛が続いています。

令和三、四年度は旭川市主催の中国ハルビン市とのオンライン交流事業に参加。こちらもコロナ禍で延期になっていますが、ハルビン市第一中学校の十四、十六歳の日本語を勉強している生徒と市の紹介や進路についての交流を行います。

●春季体育文化大会（三月下旬）

三年生の卒業後、新執行部が初めて自分たちだけで運営する大きな行事です。体育系と

文化系それぞれ三種目を実施しています。平成三十年まではバスケットボール・バレーボール・卓球・オセロ・ダーツ・将棋を行っていました。

コロナ禍により二年間実施することができず、令和三年度はルールの

わかる生徒が減少したダーツ・将棋に代わり、UNOとジェンガが導入されました。感染状況によりバスケットボールとバレーボールの実施が困難となり、三年連続の中止が懸念されましたが、フリースロー大会等、ソーシャルディスタンスを取ることのできる代替競技を考案することになったか実施に漕ぎ着けました。

●対面式・部活動紹介（四月中旬）

年度が替わり、新入生が生徒会の会員として新二、三年生と初めて顔を合わせる行事です。放送局の学校紹介ビデオを鑑賞し、各部署同好会員がパフォーマンスを披露しながら紹介を行います。このパフォーマンスを見て入部を決めた、という生徒も多いのではないのでしょうか。



●壮行式・全国報告会（四月末～五月初旬・八月）

高体連や高文連に出場する選手たちを全校を挙げて応援し、士気を高める行事です。各部の代表が各部のスローガンとなる四字熟語を披露し、大会に向けた決意を述べた後、応援委員が登場し、エールを送ります。全国大会終了後には報告会を開き、大会での活躍をたたえます。残念ながらこれらもコロナ禍で声を出しての応援ができないため、プロ野球の応援を参考に拍手で行う応援を考案し、実施しました。

●生徒総会（五月中旬）

旭工の生徒会会員、つまり生徒全員が一堂に会して前年度の反省や新年度の生徒会活動について審議を行う最高議決機関です。令和二・三年度は全校生徒が体育館に入場できないため、放送や書面による開催となりました。

●全校応援（七月）

応援委員と野球部員が中心となり、野球部の試合を全校を挙げて応援します。工高祭の準備と時期が重なるため、集合場所で踊ったり、終わった後で集まって準備する姿が見られることもあります。前述のように令和三年度は声を出さない拍手による応援を行いました。

●工高祭（七月上旬）

かつては秋の祭典と隔年で行われていた工高祭。平成十六年度に生徒会行事の改変と合わせて議論が行われ、平成十七年度から毎年開催が実現したようです。

近年は一年生が玄関フードや渡り廊下窓を装飾する「スタンドグラス」や四階教室の窓に様々な趣向を凝らした「窓装飾」を制作しています。玄関前には委員会で制作した大きな「アーチ」が設置され、外壁には幅一・二m、長さ七mの布に各科をイメージする絵を描いた「垂れ幕」が飾られ、祭の雰囲気醸し出します。生徒会の企画により段ボールアートやマツチ棒アートが玄関ホールを飾った年もあります。



金曜日午後からの前日祭では、吹奏楽部の演奏や放送局制作のオープニングムービーの後、一年生のクラス紹介ムービーや二・三年生がパフォーマンスを披露する「クラスステージ」が行われ、大変な盛り上がりを見せます。第四十回を記念して行われた「花火」は好評につき毎年開催となり、暗くなるまでの時間はPTAバザーや生徒会企画によるクイズ大会等が行われます。

土曜日は一般公開を行います。二・三年生は教室にてお客さんを楽しませる工夫を凝らした「クラス企画」や駐輪場にて飲食物を販売する「模擬店」を行います。実習棟では各科の特色を生かして展示や販売を行う「科展示」が行われます。



●工高コン（令和三年度七月）

令和三年度は全校を挙げての「工高祭」は実施しない、との判断をし、全日制のみで代替行事を行いました。内容は工高祭の理念を引き継ぐものとし、コロナ対策を前提に工高祭の活動をアレンジしたコンテスト形式となりました。

クラス企画は教室での密を避けるため、体育館に五m四方のブースを設置し、展示やイベントを行う『ハコニワコンテスト』としました。

クラスステージは全クラス三分のビデオをつくり上映する『ムービーコンテスト』としました。

垂れ幕は農業用ネットに色紙をホチキス止めしてモザイク画をつくり屋上に展示する

『ドット絵コンテスト』として行いました。お隣の高校の真似？というご意見もありましたが、コロナ禍で活躍されているドクターヘリへ感謝のメッセージを込めた巨大な絵画を、限られた準備期間の中で（ほぼ）完成させることが



できました。また、「今年度に限り特別に」という約束で屋上に上り、ドット絵の周りでドローンを使って記念撮影を行いました。

科展示は中学生や一般の方々に本校の学科を紹介する三十秒間のCMを作成する『コマーションコンテスト』として実施し、Youtubeやホームページでの全国公開（！）を目指しました。・・が、著作権の問題やネットトラブル等、慎重論も根強く、実現には至りませんでした。

行えるよう、喚起するポスターを制作し、掲示しました。

・高校生と語るつどいオンライン談話会
令和3年度北海道高等学校PTA連合会旭川支部主催の座談会に代表生徒が参加し、「スマートフォン等に関する学校ルールの今日的課題と未来」について討論しました。

●その他の行事

・換気ポスター作成

コロナ禍で教室の換気が求められた際、教室の生徒たちが休み時間に自分たちで換気を



PTA活動のあゆみ

一 歴代PTA会長（平成24年4月～現在）

- 第34代 天池 恭永 H24・4～H25・3
- 第35代 井上恵一朗 H25・4～H26・3
- 第36代 大谷 英夫 H26・4～H27・3
- 第37代 熊谷 美孝 H27・4～H28・3
- 第38代 嵐 孝典 H28・4～H29・3
- 第39代 宇野 義行 H29・4～H31・3
- 第40代 鈴木 玲子 H31・4～R2・3
- 第41代 岩崎 昌治 R2・4～R4・3
- 第42代 星 英樹 R4・4～現在

二 この10年間の活動状況

平成24年度

- 4月27日 父母と先生の会総会
- 5月14日 父母と先生の役員総会
- 5月18日 PTA連合大会（旭川・留萌）
- 6月15～16日 全道高校PTA連合会大会
（当番支部）
- 7月3～4日 PTAバザー食券販売
- 7月21日 PTA支部委員会懇親会
- 7月24日 旭工PTAだより第109号発行
- 8月31日 旭工オリンピック弁当販売
- 9月8日 PTA文化委員会
（ボディメンテナンス）
- 10月7日 旭工フェスタ
- 10月13日 PTA生活委員会
（太巻細工寿司体験）
- 12月25日 旭工PTAだより第110号発行

平成25年度

- 4月26日 父母と先生の会総会
- 5月24日 父母と先生の役員総会
- 7月12日 PTA工高祭バザー
- 7月21日 PTA支部委員会懇親会
- 7月23日 旭工PTAだより第112号発行
- 8月30日 旭工オリンピック弁当販売
- 9月7日 企画委員会親睦交流会
PTA文化委員会
（ボディメンテナンス）
- 9月14日 PTA生活委員会（ソーセージ作り体験）
- 10月7日 旭工PTAフェスタ
- 12月24日 旭工PTAだより第113号発行
- 2月28日 卒業メモリアル花火
- 3月1日 旭工PTAだより第114号発行



- 2月28日 卒業メモリアル花火
- 3月1日 旭工PTAだより第111号発行

平成26年度

- 4月25日 父母と先生の会総会
- 5月16日 父母と先生の役員総会
- 7月11～12日 PTA工高祭バザー
- 7月24日 旭工PTAだより第115号発行
- 9月1日 旭工オリンピック弁当販売
- 9月6日 企画委員会「親睦交流会」
PTA文化委員会
（アロマでセルフリフレ）
- 9月24日 マラソン大会給水活動
- 10月18日 PTA生活委員会



平成27年度

- 12月25日 旭工PTAだより第116号発行
- 3月1日 旭工PTAだより第117号発行

(アップルパイ作り体験)

- 4月24日 父母と先生の会総会
- 5月25日 父母と先生の会役員総会
- 7月10～11日 PTA工高祭バザー
- 7月23日 旭工PTAだより第118号発行
- 7月25日 企画委員会「親睦交流会」
- 8月28日 旭工オリンピック弁当販売
- 9月5日 PTA文化委員会(AED講習会)
- 10月17日 PTA生活委員会

(太巻き飾り寿司体験)

- 11月7日 PTA研修旅行
- 12月24日 旭工PTAだより第119号発行
- 3月1日 旭工PTAだより第120号発行



平成28年度

- 4月26日 父母と先生の会総会
- 5月23日 父母と先生の会役員総会
- 7月8～9日 PTA工高祭バザー

平成29年度

- 4月26日 父母と先生の会総会
- 5月24日 父母と先生の会役員総会
- 7月3～4日 PTA工高祭バザー
- 7月22日 企画委員会「親睦交流会」
- 7月25日 旭工PTAだより第124号発行
- 9月2日 PTA文化委員会(美文字研修)
- 10月3日 旭工オリンピック弁当販売
- 10月13日 マラソン大会給水活動
- 10月14日 PTA生活委員会(そば打ち体験)
- 12月25日 旭工PTAだより第125号発行
- 3月1日 旭工PTAだより第126号発行



- 7月23日 企画委員会「親睦交流会」
- 7月25日 旭工PTAだより第121号発行
- 9月2日 旭工オリンピック弁当販売
- 9月3日 PTA文化委員会(ヨガ教室)
- 10月15日 PTA生活委員会

(アップルパイ作り体験)

- 10月17日 マラソン大会給水活動
- 12月22日 旭工PTAだより第122号発行
- 3月1日 旭工PTAだより第123号発行

平成30年度

- 4月27日 父母と先生の会総会
- 5月23日 父母と先生の会役員総会
- 7月2～3日 PTA工高祭バザー
- 7月28日 企画委員会「親睦交流会」
- 7月24日 旭工PTAだより第127号発行
- 9月8日 PTA文化委員会(陶芸教室)
- 10月13日 PTA生活委員会

(アップルパイ作り体験)

マラソン大会給水活動

- 10月15日 旭工PTAだより第128号発行
- 12月25日 旭工PTAだより第129号発行
- 3月1日 旭工PTAだより第129号発行



平成31年度(令和元年)

- 4月26日 父母と先生の会総会
旭工PTAだよりの名称を「金鳥」に変更
- 5月21日 父母と先生の会役員総会
- 7月5〜6日 PTA工高祭バザー
- 7月13日 企画委員会「親睦交流会」
- 7月24日 旭工PTA日より「金鳥」
第130号発行
- 9月14日 PTA文化委員会(陶芸教室)
- 10月12日 PTA生活委員会
(アップルパイ作り体験)
- 12月26日 旭工PTA日より「金鳥」
第131号発行
- 3月1日 旭工PTA日より「金鳥」
第132号発行



令和2年

- 5月8日 父母と先生の会総会(書面決議)
- 5月22日 父母と先生の会役員総会(中止)
- 7月11日 PTA工高祭バザー(中止)
- 7月23日 企画委員会「親睦交流会」(中止)

令和3年

- 7月31日 旭工PTA日より「金鳥」
第133号発行
- 9月12日 PTA文化委員会(陶芸教室)
- 10月17日 PTA生活委員会
(アップルパイ作り体験)
- 12月25日 旭工PTA日より「金鳥」
第134号発行
- 3月1日 旭工PTA日より「金鳥」
第135号発行



令和3年

- 4月26日 父母と先生の会総会
父母と先生の会からPTAに名称変更

- 5月21日 PTA役員総会(書面決議)
- 7月10日 PTA工高祭バザー(中止)
- 7月21日 旭工PTA日より「金鳥」
第136号発行
- 7月24日 企画委員会「親睦交流会」(中止)
- 9月11日 PTA文化委員会事業(中止)
- 10月16日 PTA生活委員会事業(中止)
- 12月24日 旭工PTA日より「金鳥」

- 3月1日 旭工PTA日より「金鳥」
第137号発行
- 3月1日 旭工PTA日より「金鳥」
第138号発行





特

集



『第94回全国高等学校野球選手権大会出場』

平成24年、旭川工業野球部は北海道大会で優勝し7年ぶり5回目の甲子園出場を決めました。監督として過去5度の甲子園出場を経験した佐藤桂一先生に今回80周年記念誌の寄稿についてご相談をしたところ快く引く受けてくださり、当時は振り返っていただきました。

旭川工業は順当に支部予選を勝ち上がり、北海道大会へ出場を決めました。第94回大会が例年の旭川開催から帯広開催になることを見据えて早くから準備を進めていたと聞きました。

佐藤先生「彼らが入学したとき3年後、甲子園を狙えるようなチームになるのではと感じました。ちょうどその頃、北海道大会が3年後帯広市で開催されるというのを聞き、今から準備しなければと考え、年2回帯広に練習試合に出かけ、宿泊施設を決め帯広の森野球場での練習試合をこなし準備しました。彼らが3年生の夏、旭川での支部大会を優勝し、帯広での北海道大会に出場する事が出来ました。大会は厳しい試合が続きましたが彼らの頑張りで旭工5度目の甲子園出場を果たすことが出来たのは、大会中慣れ親しんだ宿泊施設に泊まり平常心で試合に臨めたことが大きな勝因だったと思います。



佐藤監督を胴上げする選手達



甲子園出場を決めた瞬間

7年ぶり5回目の甲子園出場を決め、甲子園での勝利に向けてどのような準備をして臨んだのでしょうか。

佐藤先生「一つは私の中で出場した過去4大会で初出場の時以来甲子園の試合では得点することが出来ませんでした。3試合とも相手の投手がそれぞれプロ野球のドラフトで指名された好投手で打ち崩すことが出来なかったので、対戦相手が龍谷大平安と決まってから相手投手の攻略を中心とした練習をして試合に臨み、その結果4試合ぶりに得点を上げることが出来ました。

二つめはどうしても甲子園という大舞台で選手が委縮して力を発揮できないことが過去にあったので知り合いのメンタルトレーニングコーチに指導してもらいました。その中でもいつも利用しているバス会社のバスガイドさんにも協力していただき移動のバスの中でコーチと一緒に効果的なメンタルトレーニングをしてもらえました。そのバスガイドさんは試合の当日の朝も選手を迎えに来た阪神交通のバスと一緒に乗って甲子園に着くまで選手をリラックスさせてくれました。」

試合は初回龍谷大平安の1番井澤に先頭打者ホームランを打たれ、先制点を許し、2回にも追加点を奪われ追いかける展開となる。しかし3回の攻撃、先頭の栗栖が四球で出塁すると、次打者菅家の初球に佐藤監督はバスターエンドランのサインを送った。バントシフトをかけた

龍谷大平安の裏をかく攻めの采配。打球は右中間を深々と破る三塁打となり初出場時以来の得点が旭工に入った。佐藤監督の積極采配が光った場面であった。一死後岸本が同点タイムリリーを放ち試合を振り出しに戻す。



堂々の入場行進

5回には無死一、三塁から9番の松橋がスクイズを決めて勝ち越し。さらに暴投と岸本の安打でもう1点追加した。今回で5度目の甲子園采配となる佐藤監督。「甲子園ではおそろく初めて」というスクイズのサインだった。7回は一死一塁、打者松橋の場面で1ボール2ストライクからエンドランを敢行。松橋は空振りしたが、盗塁が成功して流れを呼んだ。その後、一死満塁と好機を広げ、押し出しと2本のタイム

リーで一挙4点を挙げた。さらに、その裏には守りで動く。井澤にこの試合2本目の本塁打を浴びて2点差とされる。官野峻稀をあきらめ、右下手投げの太田にスイッチ。北海道大会では47イニング中、46イニングを任せた絶対的エースを思い切つてマウンドから降ろした。



4大会ぶりの得点をあげた菅家選手

そして、9回も簡単に二死。悲願の甲子園初勝利まであと1人と迫った。しかしここから四球と安打にパスボールが重なり二、三塁とする。5番の有田にライト前へ2点タイムリリーを打たれ同点。急遽、黒川をリリーフに送り起用に応えた黒川が後続を押しえて試合は延長戦へと突入した。延長11回に力尽き、サヨナラ負け

となったが、2万2千人の大観衆から大きな拍手が旭工ナインに送られた。



絶対的エース官野選手

名門龍谷大平安との手に汗握る大熱戦を振り返っていかがでしたか。

佐藤先生「試合は9回2死まで名門龍谷大平安高校に2点のリードをしていながら、あといつのアウトが取れず同点に追いつかれ延長で負けてしまいました。高校野球の難しさを改めて強く感じました。敗因は色々と思いますが、大きな敗因として一つは選手にベストの状態です。練習中に怪我をさせてしまったり、体調をくずしたり私の気配りが足らなかつたと後悔しています。二つめは攻撃面ではある程度采配出来まし

だが、守備面では大事なところで視野が狭まりその結果、守備位置の指示の遅れや選手交代の決断が遅れるなど自分の未熟さを痛感しました。多くの期待を背負いながらその期待に応えることが出来なかったことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。」



甲子園の大観衆から大きな拍手

最後に佐藤先生から80周年を迎えた旭工野球部にメッセージをいただきました。

佐藤先生「現在、旭工野球部の顧問の中に私の教え子でもある4名のOBがいます。大変なコロナ禍という逆境の中で熱心に後輩の指導をしています。近い将来私が果たせなかった甲子園での勝利の校歌を聴かせてくれることを信じて80周年記念誌の寄稿いたします。」



甲子園の砂を持ち帰る選手達



吹奏楽の応援も力強く後押しした

改めて甲子園に出場することの難しさ、甲子園で勝利することの大変さを感じました。佐藤先生が創りあげてくださった旭工野球部の歴史と伝統を引き継ぎ、甲子園で勝利して校歌を響かせることを私たちは追い求めていきます。佐藤先生、ご多忙の中寄稿いただきありがとうございます。

平成24年8月12日

1回戦 阪神甲子園球場（観衆2万2千人）

チーム 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 計

旭川工 0 0 2 0 2 0 4 0 0 0 0 8

平安 1 1 0 0 1 1 2 0 2 0 1X 9

※本企画の写真提供は「あさひかわ新聞社佐藤敦彦様」のご厚意によるものです。厚く御礼申し上げます。

我が青春の旭工③

